

■140 万円の ADAS 搭載 EV の誕生へ

BYD は 2025 年 2 月 10 日、独自のハイレベルスマートドライビングシステム「天神之眼」を発表した。天神之眼は A~C に分かれ、それぞれ中国で常用される自動運転レベル 2 の、L2、L2+、L2++という階層に対応している。この分野で出遅れが指摘されていた BYD だが、L2 に相当する天神之眼 C をほとんどの王朝・海洋に搭載、スマートドライビング版として価格も現状とほぼ据え置いた。この分野でも本気を出し、価格戦を始めた形。7 万元(約 140 万円)の高度 ADAS(先進運転支援システム)を搭載した EV が、中国で登場する。

天神之眼は、BYD が独自に開発したシステムで、特長として、純粋なカメラベースの視覚認識による運転支援だけでなく、LiDAR を活用したシステムも含んでいる点が挙げられる。米テスラがカメラ中心の技術を維持していく中で、中国では LiDAR の併用も一般的になっており、BYD もそれに倣った形。

ただし、エントリーレベルの天神之眼 C には LiDAR がなく、自社開発のアルゴリズム、純粋な視覚認識方式を採用している。12 台のカメラ、5 つのミリ波レーダー、12 個の超音波レーダーからなる。搭載チップはエヌビディア「Orin N」または中国製の「Black Sesame」を採用、演算能力は 84TOPS となる。高速道路における手足の操作が原則不要な NOA(ナビゲーション・オン・オートパイロット)を実現する。主にこれを評して BYD は「全人民にスマートドライブを」と謳っている。

ミドルレベルの天神之眼 B は中国自動運転スタートアップ Momenta 社と共同開発、標準で LiDAR を搭載している。1~2 台の LiDAR、13 台のカメラ、5 つのミリ波レーダー、12 個の超音波レーダーからなり、チップはエヌビディア「Orin-X」を採用、演算能力は 254TOPS に達する。高速道路に加えて、都市部内でも全領域の NOA を実現する。王朝・海洋シリーズのフラッグシップモデル(漢、唐。夏も?)、及び騰勢(DENZA)で採用される。

BYD独自ADASシステム「天神之眼」(DiPilot)

| 名称    | DiPilot     | 自動運転レベル | LiDAR  | 機能       | 対応ブランド・車種          | 価格帯    |
|-------|-------------|---------|--------|----------|--------------------|--------|
| 天神之眼A | DiPilot 600 | L2++    | 有 3~4個 | P2P      | ・仰望                | 100万元~ |
| 天神之眼B | DiPilot 300 | L2+     | 有 1~2個 | 高速・都市NOA | ・DENZA<br>・王朝の旗艦   | 25万元~  |
| 天神之眼C | DiPilot 100 | L2      | 無      | 高速NOA    | ・方程豹<br>・王朝<br>・海洋 | 7万元~   |

出典：BYD 発表情報をもとにインサイトが作成